

第2回 地方独立行政法人安来市立病院評価委員会 議事要旨

○開催日時 令和8年7月30日(木)
午後1時30分から午後3時30分まで

○開催場所 安来市役所 3階 301会議室

○出席者

(委員) 上田 敬博委員、小川 真滋委員、栗谷 義樹委員、
久留 一郎委員、吉田 実貴人委員

(安来市) 健康福祉部 参事 松崎 理泰
健康福祉部地域医療推進室 室長 加藤 昌和
係長 福田 征二
主任 荒田 侑拓
主任 永澤 果林

(安来市立病院) 事業管理者 山崎 泉美
病院長 水田 正能
事務部 部長 宇山 富之
事務部総務課 課長 青木 尚美
事務部経営管理課 課長 藤原 渉
事務部医事課 課長 井原 隆宏

(委託業務受託者)
東日本税理士法人 税理士 夏苺 千晶

○内容

1. 開会

2. 議題

議題1「地方独立行政法人安来市立病院中期目標(案)について」、事務局より、資料1、資料2について説明。

【質疑】

■委員

- 中期目標（案）第3 1 （2） 職員の職務能力の向上について、事務部門においても専門性の高い業務であるので、市からの派遣職員ではなく、プロパー職員の方が望ましいと考える。今後の市の考えを聞きたい。
- 事務部門への市からの職員派遣について、どのように派遣するかなど詳細な話は進んでいるか。

□事務局

- 事務部門において、現在、市からの派遣職員は4名であり、法人移行時は現状維持を考えている。将来的には、プロパー職員を育成しながら、その育成段階を考慮して、派遣職員を段階的に減らす方針。
- 派遣職員に関する詳細な話は今後、病院側と協議を進めていくところである。

■委員

- 中期目標（案）第2 1 （4）急性期機能の見直しの項目について、「今後増加が見込まれる高齢者救急」とあるが、安来市では今後高齢者も減少していく推計である。中期計画に救急受入人数等を目標数値として記載することになれば、達成は難しくなると考えられる。目標数値を上げると、医療リソースが救急に割かれ、現場が疲弊することになる。
- 島根県保健医療計画では、圏域に3次救急の病院が4つあり、救急医療体制は充実している。安来市立病院が2次救急を担い、さらに充実させる必要があるのか。

■委員

- 松江圏域や鳥取県西部圏域では、2次救急と3次救急の役割分担を明確にする流れであり、安来市内で1次から2次救急をある程度応需する必要がある。そうしなければ、松江地区や鳥取県西部の3次救急がパンクしてしまう。その意図を汲んだ記載が必要だと考える。

■委員

- 新たな地域医療構想の医療機関機能では、「急性期拠点機能」「高齢者救急・地域急性期機能」「在宅医療等連携機能」「専門等機能」の4つから医療機能を選ばなければならない。市立病院はこのうちの「高齢者救急・地域急性期機能」を選択したという意味合いだと考える。大きな齟齬はないと考える。

□事務局

- 中期目標は今後4年間の目標期間であり、この4年間では、高齢者救急の需要が一定程度見込まれることから、その需要に対応することが重要だと考える。
- 地域の実情に合わせ、新たな地域医療構想の医療機関機能として、「高齢者救急・地域急性期機能」を方針とする考えである。

事務局が提案した「中期目標（案）修正案」について、修正なしとして委員の承諾を得た。

議題2「地方独立行政法人安来市立病院中期目標（案）の意見書について」、事務局より資料として「意見書（案）」を提出し、説明。

「意見書（案）」について、修正なしとして委員の承諾を得た。

3. その他

次回開催日程について、以下のとおり事務局案を提案し、改めて日程調整することで委員の了承を得た。

日時：令和8年9月下旬以降

場所：安来市役所

4. 閉会

以上